

2018 年度活動方針（案）

「高槻の高齢社会をよくする会」は今年で創立 26 周年を迎えます。昨年は創立者である辻光文さんを見送り、当初の立ち上げに参加された方々も次々と引退し始めています。高齢化の波は着々と私達を覆い始め、地域の井戸端会の話は老後の話題(病気や健康、住まい、一人暮らし、断捨離など)が弾んでいます。今後は、より若い層の参加をいただいて活性化を目指したいと思います。

医療や介護などの社会福祉費用の削減を目指す国の施策は「縮小傾向」をもたらしています。お金の問題より心の豊かさこそ大切にする必要があります。「よくする会」の「尊厳を持って生きられる豊かな人間関係を創る」という理念を確認しつつ、新たな支え合いの歩みを今年も着実に進めたいと思います。特に、会員互助活動の「ありんこの会」活動は、地域で支えあう一つのモデルとして活動の幅を拡げて行きたいと願います。

1. 心身ともに健康を維持し、生きがいや働きがいを見出すため、会員が地域で上手にながって助け合う仕組みを創る。

- (1) 井戸端会(塚原地区第 2 火曜日、南平台地区第 3 金曜日)を毎月開催して地域の仲間づくりを行う。
- (2) 毎月第 3 土曜日につどいの家「はむろ」で午前は運営委員会を開き、午後には学習や交流を深めるための行事を企画する。行事に参加しやすくするために送迎体制を整える。また、会員や地域の要望を聞いて企画を充実させるため、運営委員会への参加者を増やす。
- (3) 塚原の「福祉ステーション えにし庵」や氷室の「ほっこりカフェ氷室」など協力依頼のある地域活動との協働を進める。
- (4) NPO フェスタに参加し、高槻の行政や NPO 団体との協働活動を進める。
- (5) 「よくする会祭り」を年一回行い、会員や地域との交流を深める。

2. 病気や障がいを負っても互いに尊厳をもって生きられるよう、「弱さ」を共有して支えあい共に成長していく。

- (1) つどいの家「はむろ」の介護事業と予防活動を充実させ、ケアの質を高める。スタッフの世代交代を意識してその成長を図る。
- (2) 会員互助活動「ありんこの会」の活動を更に拡げて、互助活動の実績を作りつつ会員も増やす。
- (3) 「認知症を理解し地域で支える会」の活動等に参加し、認知症本人とその家族の支援に貢献する。